

## 実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月	直近の更新年月日
十和田市	大深内地区(八斗沢・豊ヶ岡、立崎、大沢田、洞内)	平成24年12月	令和6年3月25日

## 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	1,577.20ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	991.44ha
③地区内における65才以上の農業者の耕作面積の合計	513.93ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	128.20ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計 (備考)	111.04ha

## 2 対象地区の課題

立崎では若い農業者が多くいるものの、地域全体として高齢化が進んでいるため、どのように若い人を確保するかが課題である。
--

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

八斗沢・豊ヶ岡では、農地中間管理機構を活用し、高齢農業者等から中心経営体への農地集積を図るとともに農地の有効活用を進める。また、担い手の分散錯圃の解消を図るとともに、新規参入を促進し、新規参入者へ集積・集約化を図りながら、新たな耕作放棄地の発生を防ぐ。
立崎では、農地中間管理機構を活用し、高齢農業者等から中心経営体への農地集積を図るとともに農地の有効活用を進める。また、担い手の分散錯圃の解消を図るとともに、新規参入を促進し、新規参入者へ集積・集約化を図りながら、新たな耕作放棄地の発生を防ぐ。
大沢田では、農地中間管理機構を活用し、高齢農業者等から中心経営体への農地集積を図るとともに農地の有効活用を進める。また、担い手の分散錯圃の解消を図るとともに、新規参入を促進し、新規参入者へ集積・集約化を図りながら、新たな耕作放棄地の発生を防ぐ。
洞内では、農地中間管理機構を活用し、高齢農業者等から中心経営体への農地集積を図るとともに農地の有効活用を進める。また、担い手の分散錯圃の解消を図るとともに、新規参入を促進し、新規参入者へ集積・集約化を図りながら、新たな耕作放棄地の発生を防ぐ。